

外科類聚



門子加18
號 777
卷



昔操
外頭年鑑目錄

古流井と播磨掾分

同門井と市部を吏分

同日清水理を務分

同日山本古佐掾角を吏分

同日門吏松本治を吏分



手鑑

○ 同 日 都^{ミヨ}を吏一中 分

○ 日 古^コ路^ロ國^{クニ}を吏する

○ 同 圀^ウ本^{ホン}文^{ブン}弥 分

○ 日 門^{カド}才^{サイ}阿^ア波^ハを吏 分

○ 同 字^ジ派^ハ加^カ賀^カ振^{シン}を吏する 分

○ 日 門^{カド}才^{サイ}野^ノ田^{デン}若^{ニホ}狹^{キナ}富^{トモ}松^{マツ}薩^{サツ}摩^マ 分

○ 同 倭^{ヤマト}齊^{セイ}鴻^{コウ}文^{ブン}同^{ドウ}依^イを吏する

○ 日 道^{ミチ}具^グ屋^ヤ吉^{キチ} 分

○ 同 表^{ヒョウ}具^グ又^{マタ} 分

○ 高^{タカ}派^ハ竹^{タケ}本^{ホン}在^{アイ}を吏 分

○ 同 倭^{ヤマト}友^{トモ}出^デ羽^ハ振^{シン} 分

○ 日 明^{アカ}石^シ越^エ後^ゴ 分

○同 陸竹小和泉 分

○同 江戸を竹肥系極 兼奉慶 分

○同 京師竹本義を主在之事

○同 大坂諸所極古浄極瑞極始之

○同 尚派祖竹本既後極 分

○同 豊竹越前極 分

○正徳 己未西在替浄極瑞初日年月日記
享保

○古今を主受領年月記

○西在を主出在退在之事

○出張出を始り之

○時代事世後海瑞瑞始之更

○出經を主ワキツ三經人形出を日記

○芝居と表に織進物ホカ来と娘

○るゝ物言道具達と半

○舞臺小幕ヲ引初事

○正多と本と換束ニ悲ス時々の事

○あやゆりの娘と事

目録終



可持

○古流井と標磨板 井と市を考ふる

新十二伝 是古の伝と

日本ゆり 是は中世のゆり

女神境 是は白糸と号し

二親孝行 是は孝行と号し

白旗の出来 八幡を号し

兩冊

同り

夕陽金

五天竺

祇園精舍

天鼓

太史

大友真鳥

日本王代記

荏柄平を

神道蛭通

百合若磨

甲賀の之布

源平恋の迷恨

道教禪師傳

長谷寺利生記

土蜘蛛退治

金剛藏文子乃

兵庫の築港

二代乃敵討

田村將軍初親音

利屈お徳

一休物語

頼光孫目論

源氏築紫合戦

根えり我お徳

聖徳太子傳記

業平一代記

上頁二監

源氏誓田合戦

損義北國落

花山院物語

損朝七張落

菅原親王行状記

藤原清曹司東鑑

金剛山合戦

大石我留士牧将

賢女手習鑑

日向系譜

信濃源氏本名軍記

大藏冠知畧玉取

大念佛由来

三浦北条軍法競

楠千早合戦

河津相撲の遺恨

東大寺大佛縁起

佐々木義戸先陣

三浦大船老後巻

源氏十五伝

井上市房美

五大力菩薩

日

待宵物語

後水理彦

源氏東乃門出

上東院 右三

松浦五郎旅日記

井上氏一生之謬れ 傳りり百金あると
るく中西派氏の標年代化して一りた
予又は乃びざれど反ていまる
追く考へくさかふなり

○山本主依掾 角太史 松本依を史 都を史一仲 分

角田川

小燈管

天親菩薩

孝子若

阿漚平次

傳教大原記

王照君

清水晴玄

源氏蓬萊三物

三糸小艇派

女人往生記

久米仙人

都志王丸

孤彈内近

天王寺彼客中目

長光寺用帳

信田小左郎

信太妻

然井太市孝初卷

西教寺七方日廻向

一心二河白道

小敦盛

粹被

小栗判官

送發王子接車

因幡堂因帳

眉間天拍張

石童丸

浦嶋を郎

八麻大臣

四十八願記

平親王將門

元山法皇順礼記

袈裟衣陣最拍張

酒吞童子

日蓮聖人徳行記

高砂

松本流をま

牛若東下向

源氏馬帽子折日

後九帝盛長流食全玉凡
ニツの八形ニ初て是を計り

石川又左衛門 有

鎌倉神日記 日

八嶋合戦 日

清水寺利生物記 日

傳授小町 日 支一中

万屋船六中 日 上三

松久末の松山 日

菜種の花盛 日

幸濃浪枕 日

荒三近江系 日

愛深如王親白松 日

おきん 川系中 日

○田本文弥 并阿波を丈分

三柿を丈

源忠と人記

曇響を師範

大職冠方便の玉

阿弥陀場

守屋大臣

日親と人法難陀

中将娘蓮蔓陀陀

三田八幡御傳託

忘歌抄語

百合義高襲政

契史國物語

長命寺開帳

中山利生物終

厚金文七

元禄十八年壬午八月十六日
市仕屋之令日九月九日初日

善光寺開帳

照天照探車

當世樣續日本紀

世三同堂棟由来

母不文終日何彼を史松中洛を史於を夫一中等ハ
何止也史師古依極又ハ井上成の海ありと多分從

らるゝ左新地多々別て一申の身子之史松史史
竹本史竹の世洛澤るハ史を史史一洛一終一終一
ゆ一史終る新地ハ史終の時代とと教り一終一
と史及不終

○宇治加賀様 嘉をまゐり 兼門身成の分

大磯虎道世記

小晒物終

百人一首

西王母

一心五戒玉

身替同終

融大臣

今川了俊

将中人丸

大佛供養

西村抄綴

深殿

右備大臣

淨慈寺願八坂塔

儀殿右

和田軍

中將

柏崎

弓削道鏡

當流小栗物綴

之服召我

阿弥宗任東大全

日本武尊

小袖乃家

夜通姫和光玉

三井寺狂女

十六夜物語

法明道流行刀傳

夜討乃家

摩耶山開帳

小室道風額掬

法隆寺因帳

弘徽殿嬪姫抄

源頼家御給

神武帝洞正月

藤原守忠彦

惟多惟仁位孫

大原同春

三社乃統宣

須磨寺多葉笛

富貴乃家

門出八傳

浦嶋太郎七世縁

遊河上人名号記

曆

蒲冠若鞠初

賢女相生松

弱法師

後知草

いろは抄巻

天神御本地

多羽意振抄記

世継乃我

い修乃の内於此系の人取は是と升
初は法儀に立抄人形三是と替なり

伏見常盤

葵のこ

藍深川

凱陣八嶋

東山殿子日遊

本領る我

関赤小六東云法

并慶京土産

平安城都遷

頼朝由井演也

おるの
後十帝 哥念佛

呉羽中將北三夜侍

る我七ツ以呂波

素原女之助

津戸之郎從生要集

遊君之世相

源之佐頼政

葛葉道公物語

白馬判官盛久

固崩る家

義経懷中硯

赤永忠則

川萱道心物語

續城寺布小神賣

石山寺用帳

豐田 富松

石岡萬房深

日

新腰越新狀

日

新波五人男

日

西明寺殿行脚松

富松

傾城安見池

日

夕雲篋乃杖

日

富士溪同藤樂禪

八條修治系物經

日

幸家一本松

日

白髭赤令媛愛

日

松久松乳笑

日

魂產天親音

宇治

抵石願寺名号記

宇治

女人即身成佛記

日

傾城今西行

日

傾城八重櫓

日

鞍馬山師弟杖

日

石山寺花櫓

日

玉置鑿七人仁格

日

南於師親毒

日

念佛往生記

日

忠信男替物語

日

遊行念佛記

日

損改歌道府

世田
留書

傾城我立杞

口

傾城法同嶽

口

龍城連理袴

口

傾城所遷宮

口

傾城浮洲岩

口

八幡文和光白旗

口

三井寺豐年旗摩

口

大黒天万宝所藏

口

南大門秋波卷

口

愛宕山旭峯

口

大和歌六教之紙

口

傾城紋日曆

留書

忠臣行呂波夜討

立

関東小六丹前安

留書

加志史の定所伊勢傳文内傳るりも江戸の大さるま
 おと同ふこ又区續の外題を中及び元文内門人依を史
 伝三帝廟と云一人京朝小町と云芝居と與給一冬勤
 りれ一冬勤のるか實極と井と氏との傳るりと終る
 り一冬又か加志傳るり野田新様お世七本松系傳るり定
 芝居の志史より久く勤るり一冬勤の傳るり多るり
 傳るり一冬志史のまを伝るりと云れた内本は一冬中
 留書氏八に系定傳るり史定芝居るり定伝文内本と同傳

○俘敵少尉極芝居る尚流

前四重將都遷

享保十七壬子年十一月廿
初日

孝謙天皇儀文禮

是公卿の如く外にて
けりより芝居る終る

○明石越後乃根條芝居る

三軍格授原

延享二年乙丑十二月十三日
細目

延喜帝秘曲民臣

○陸行小和泉芝居る

歌枕疎疎花合戦

延喜三年丙寅八月三日

唐金衣右馬東蠻

女舞劍紅葉

鎮西八郎射社来

け外古代ニ虎居る史次ニ陸奥居る史ニ井
永清を史行本源を史辰妻八郎を橋本大坂表
芝居る史次ニ井上作左の源より
と傳へれり右より形化を又又及り

○江戸豊竹肥前板 新左史事

享保十九甲寅の年江戸表三木田屋
年乃召ハ若松丹後板と云々代々々芝居と
自りやれと及又辰松氏の芝居にて
勤めらるゝ元文年中今之芝居と求
善信成然一江戸肥前板原京清心と新

に樽幕と揚れり尚新新海方の外記

石橋山鑑重

義経新合片

増補日蓮記

小山判官 新板重物語

虎の冥守 懐老郎東海硯

親密と云々新記

十世男 太平記枕詞

尚在江戸表乃外記辰松表此探

芝居は三十九年の召八何れも大坂所
豊行あるの勢降るを乞ふ
小節々故勢化乃外題と云々及に

○京都竹本義老史芝居

宝暦三年癸酉の春より始る南無大
坂表の史を入塔りて勸る勿論大坂

市泉芝居乃降るを勸る不新化は

○追加

宝永四丁亥年二月大坂生玉社の境四
ふおわく竹本豊行の降堀陽極を
場始る史より迄のち社境四
自りる日を返る者々繁昌に

○當流竹本執後板義を夫事

大坂道板城を芝居奥の始め八百五十二年乙丑の二月に敵初の時福瑞に世継る我次ハ藤澤川より入るは物倍けに敵ハ板方のおおきく井と氏方の賢女平習鑑頼朝七騎居以上入りハ先師より終

れ一古澤より江に仕廻同三年寅の春ハ

近松門左衛門京助ハ新おとけり越さるを六

出世景清 も近松氏を夫澤より此の春初よりけは多分近松の代より

佐々木大經

多田滿仲純

達磨の本地

源氏冷泉節

大塔文徳好義

定家つ小倉色紙

天智天皇

自知者士

源氏十二位

續號施

文武五人男

松風村西東常盤

愛子若都の富士

平假名太平記

今様相本

大掛物十幅一對

存後別當美盛

多田院用帳

秋迦如來誕生會

豫田參禪名取孟

忠信廿日正月

義經追討女舞

新板腰越狀

那須与市小橋威

頼朝伊豆日施

百日乃我

吉野忠信

義經東去法

源氏烏帽子折

本海道虎う石

淡羅出世御徳

浦嶋年代記

蟬丸

元禄十四年辛巳五月竹本義を文
勅許交領執権板及系持教と号次

神鏡雲万石

万石八人兄弟

酒吞童子枕言葉

傾城八花歌

大磯虎雅物語

加増万石

西明寺教百人上臈

豊年萬石萬歳

おまの
徳義 万石徳公中

元禄十六年癸未八月七日
此者近松門前

いふ中八高に月さる日人
お海より八日本王代記

是世上世所傳ありの歌を
竹本氏に今の太高りく

源八幡薩摩哥

あふさ
徳義 公中重井筒

用明天皇職人鑑

宝永二年乙酉三月高年
竹田出雲板竹本之居の歌を

浄入の阪出歌

左文鏡板三巻竹本に於て
おまの人形屋書八節所今もあはれ仕地

雪女不投羽子板

公中二枚絵草紙

傾城返魂香

あまの
花 笠抱狂

あまの
とろろ 卯月紅葉

兼好法師抱見車

日後卯月色上

甚猛太平記

義経將基經

堀川波の鼓

あまの
源 芦分船

あまの
とろろ 公中万年草

あまの
とろろ 待夜小室節

あまの
とろろ 公中十日寺

當麻中將姫

新本領多奈

今様小栗判官

日本西王母

今川判官糸目

新天鼓

増補根元多奈

収賀系平子

小冊道風記

甲賀三布

大原同定多奈

本多軍記

多摩川
三十七

厚令文七
長町女後切

下園楠魔鏡
十二版長生佛卷

百合石時守鏡
彩一公入戒玉

吉野郡女楠
尚世のりは地張

増補藍染川
新増補巻之六

傾城三世相
因幡茶屋傳記

おえん大經作青曆
加古教公七墓廻

提將劔布地
公中氷羽日

武百敷内堀山姥
梅川真途系御

夕霧阿波昭門
公中天綱鴻

おきさ掛網公中
勇家廟八景

前傾城掛網抄
正徳二年壬辰二月四日

切丹波与化
政老丈此て出た乃中及六郎事公鏡

外題手鑑
三十七

多景集

三十一

る我虎石磨

河内國地力大

新撰大職冠

弘徽殿持羽衣家

孕常盤

傾城者岡深

天神記

正徳二年癸巳二月廿五日
大和を丈初め天香山節事りお語

相摸入道千足大

俺は娥哥り
横笛
大和を丈返す

源家天皇甘露雨

二人静服内探

持統天皇歌軍法

いふを六條より短くあるおのま
飛のどけきやうそうさ
うきんやんぱ
うりまを

筑波極芝居舞の自ま二年より来世二三年の間
井上氏より治氏先師をの勤れし海より凡そ六十歳
余も務めしれりたふの勤分にかやうあるまゝ累にけり近ね
氏に及ひその他が勤化百余年勤分百六十歳余と操
掛る芝居を勤め正徳四年甲午九月十日六十四歳と死
去せしるを竹をた丈漢奥底を丈二つ井をた丈内通利
を丈竹をた波多川原を丈を竹万を丈竹をた母竹をた代
を丈竹をた政を丈竹をた大和を丈竹をた丈おの夜中筑は極おせ
の月勤れし筑波極は固性爺の八音り海より初日の年
月日三乃ひ他和の又八名さきき丈夜の出夜返すと此記

十通耳

三十

父八重皇 國性爺合戰 和 享德五年乙未十一月朔日
日三年越十七月朔日未申二月朔日

九仙山竹中抄每 四色段を文竹中を文 三絵落伏二二
三段め日段を文 文竹中を文 日 就彼候者近松門島

種八日中 同後日合戦 太幕の上赤幕引初日
享保二年丁酉二月十八日

乃根保公中 二交月 同年八月朔日

陰枝三重帷子 同年八月廿二日

聖德太子繪傳記 同年十一月十六日
文を文退座

山崎与次藩表門松 享保三年戊戌三月二日
大和を文再出座

日本振袖初 同年二月廿二日

乃我會智山 同年七月十五日

日蓮上人施 同年十月十二日
同十月五

傾城酒吞童子 日
同十月廿五日
文を文初テ出座

將多小女帝浪枕 同年十一月廿日
國を文出座

長光寺堂供養 日年十二月十三日

本朝三國志 享保四年己亥二月十四日

女後寛平家女藤原 日年八月十二日

傳系蛙合戦 日年十一月六日

國姓爺合戦 二交月 享保五年庚子三月二日

井筒河内通 日年三月二日

双子隅田川 日年八月二日

日本武尊東鑑 日年十二月四日

小つる公中天綱湯 日年十二月六日

播磨國史婦池 享保六年辛丑二月十七日

女穀池地獄 日年七月十八日

信忍川中鴻合戦 日年八月十三日

唐之勳今國性爺 享保七年壬寅正月二日
式古丈出產

浦鴻年代訖 同年三月二日

公中育庚申 五所
同年四月廿二日

祇王
祇女 佛御系將軍 同年九月朔日
尚冬歲去丈退產

大塔宮職鎧 享保八年癸卯二月十日

お吉
空月 櫻町昔名死 同年十二月廿四日

將軍太弟良門 出胎冠者賴平 関八次敷系馬 享保九年甲辰三月十日
同月國々

尚三月廿一日大坂中大火其系系焼死四月八日假芝系
酒吞童子持統天皇相模入乃十日替ふお勲む

三國志大全 諸葛孔明 鼎軍談 同年七月十五日

右大將孫念家訖 同年十一月四日
尚十月廿二日近松門為死

出世奴雅抄緒 享保十年乙巳五月九日
和泉去丈退產

復島羽衣塚 同年六月十五日
表去丈出產

同年八月朔日

同年十一月廿八日

三浦大 equal 红梅豹

享保十八年庚戌二月十五日

信及妹捨山

同年八月朔日

須磨都源平磯濁

同年十一月十二日

國性爺合裁

二方目 享保十六年辛未五月廿日
天海具負組々々之表二初テ憾ヲ云

鬼一法眼三略卷

同年九月十三日

増補用明天皇

享保十七年壬子四月朔日

淺入出語改方丈三法友二帝出き人形相竹二云

伴達深子綱

二方目 同年六月八日
お海より信大小を帝

檀浦兜軍記

同年九月九日

大田裏大友真鳥

二方 享保十八年癸丑二月初日
日 尚三月十二日大和方丈云

太平記 車返合裁概

同年四月八日

和泉方丈又云

今方大益を七人形ニ 尚六月廿日之云云大徳家之云云
又云云の類々と云云 系事指方丈と云云鬼一法眼國性爺

松山 元日今年紙

同年十一月十五日

七方丈云

應神天皇八白幡
享保十九年甲寅三月朔日
改を夫を夫と名を改

河内通
同年六月八日

蘆屋道備大内鑑
同年十月五日
三輪を夫を内通を夫を改

今よりと平を人形の候より候仕初め秋末より大内鑑

甲賀二郎室物語
享保廿年乙卯九月十四日

赤松園心縁陣幕
享保廿年丙辰二月朔日
史記の縁を進物芝居の表縁初

享保廿年乙卯十一月を夫を
勅許史記所を上縁の候より喜教
三徳源流を二所

敵討襪襦綿
同年五月十二日
ふゆより四季十二段出給和泉を夫
三三三

猿丸を夫鹿奏毫
同年十月十三日

清原極河川夜討
元文二年丁巳正月廿八日
上縁極極磨女極を改

大政入道名庫岬
同年十月十日
同月十二日
員法を夫を夫
金三三

行平原馴松
元文三年戊午正月廿五日
史記
和泉を夫を夫

小栗判官車街道

旧年八月十九日

元文四年巳未四月十一日

望加味盛衰記

元文四年巳未四月十一日

鴻を夫初て出産

今川本領楠磨館

元文五年庚申四月十一日

將門冠合致

旧年七月朔日

七月用を

前百日月家

旧十一月十一日

切亥八卦相曆

近松門方十七日忌速記

傳豆院宣源氏鑑

元文六年辛酉正月十四日

百合を夫紋を夫初て出産

新うけ書抄

寛保元年辛酉五月十六日

いふ出動よりいけを夫修を夫百合を夫高を七を夫いふ大い
播磨縁内を夫紋を夫七を夫之修縁内を二部小お勤り

新衣いふは縁起

寛保二年壬戌二月十四日

玄冬内匠を夫退産

室町千重子

夫婦修之二月日 四月十七日

出語を夫いふ夫ッレ修を夫三修を二部

男外五郎全

旧年七月二日

高冬縁内を夫出産近松記

入鹿大石皇於輝

寛保三年癸亥四月六日

四月四日

2

丹次爺少栗

同日八月十八日

大内裏大友貞重

三同年十月廿八日
目改方丈初出花さるるを

記源氏道中軍記

延享元年甲子三月
七月廿五日播磨板石村年二十四

江ふふ益表施

二番目 同年十一月十六日
源方丈出花 初出花

切播磨板石長

出花 いたま改方丈百合を丈柳を丈
八曲出花 後方丈改方丈を丈
三張 同方丈

軍法富士見西行

延享二年乙丑二月十三日

其奈浪花鑑

同年七月十六日
いふ人形三帳子衣當を名せ初む 十月同

楠背新

延享三年丙寅六月十四日

前播磨板石田忌連云
佛法爺之將軍

同年五月四日 初日法示

切鏡板石三年忌同出花を丈けを丈ツレ改方丈三三
公中重井筒

友三市人形出花
吉田文三市
山田伊予流

菅系傳授子習鑑

日多八月廿一日

傾城枕軍鑑

延享四年丁卯八月廿三日
文字方丈位のを丈出花改方丈

義經千本様

日年十二月十六日

假名手本忠臣藏

寛延元年戊辰八月十四日
南十月廿五時辰至百合大末方末迄死

菅原道滿大内鑑

日年十一月廿二日 十日国

尚冬大隅極再勤内近方末了千少方末長門方末去依方末
出方末改方末棉方末依方末上總方末又相方末字方末迄死

栗鴻濤嫁入離形

寛延三年己巳四月十八日
切出諸方末大隅極方末子終方末迄死

双蝶々曲輪日記

日年七月廿四日
尚冬之味也三時迄死

源平布引譜

日年十一月廿八日
尚冬上總方末死迄

國性第合戦

日年月 寛延三年庚午七月十六日
九仙山大隅極方末方末三時迄死

文武世継梅

日年十一月廿四日
今ノ紋方末初方末迄死

慈女房深方子經

寛延四年辛未二月朔日
六月国々

道成吉原外事テ吉田文三市大鼓吉田方末吉田方末
盆方末極踊 人形 日年十一月廿四日 大鼓相竹方末迄死

及行高六峯様

日年十一月十七日
大隅極大和極方末迄死

名筆傾城鑑

宝曆二年壬申三月廿三日

世祐言漢楚軍談

日年五月十八日

歌討襁褓綿

二六日 日年七月十六日
お修る川中修三匠目と

伊達錦五十四那

日年十二月十六日
まを丈薩奥を丈出を

愛媛雅名歌務岡

宝曆三年癸酉五月五日
改を丈綿を丈系歌の組を丈初を丈初を

草蒲前探弦

宝曆四年甲戌二月二日 二月
大和極を系薩奥を丈返を位のを丈を丈

小神組貫練門平

日年四月十七日

新く以書物終

二六日 日年七月十六日
佐佐を丈返を

小節道風青柳現

日年十一月二日
保を丈家を丈初を出を

前相模入道

宝曆五年乙亥七月十六日

後庭涼探在浦

大和極御京

前柏子角淨福瑞合

日年十一月十六日

日年忘在在探

友を丈もを相を丈初を出を

崇徳院續傳記

宝曆六年丙子二月朔日
綿を丈上を系を丈仲を丈を丈

鬼一法眼三畧奏

二月一日年六月初日
播磨板十三面忌遠長

男比五原令

二月一日年八月二日
於る根徳芝居 改を夫と京

平惟茂凱陣紅葉

日年十月十五日
千賀あまあを十一月国を

姫小松子日の莖

宝曆七年丁丑二月九日
改を夫と京と三條 聖派長八か所

今主 明石

○苗派豊竹越前守殿 初ハ君を夫と号は

大坂道転居して芝居無以の娘ハ元禄

十二年の比成井と号は竹下ホの光原迄乃

淨福瑞と号れり 傾城懐内子足新比の

初め之京於城紀州南於ホくても芝居と無以

せしと元禄十八年 壬午年より転居して京と無以

と都より新和りの新海より外都に集む

前末廣十二位
切公中後のおれ井
全座全座常浮名額

東家居士
新百人一首

教生石
井筒屋源六志を晒

坂上田村丸
新巻庫繁治

今川あとも砥刀
信太妻女占

熱谷三ツ子燈
新板依と本大燈

いろは娘千丈燈
女長田こり皋橋

傾城富士嶽
傾城二河白道

新板三井古ね女
純三井寺用帳

寝お娘
乃我三初経

傾城いんぎやう彌やい彌やい固
七枚しちまい吾妻ごま雛ひな形

播磨多根松

男色加茂侍

糸市梅田中

傾城千日庵

聖德太子金刺都

新日向系清

淨瑠璃衣了序

坊補女袖鏡

新板板部七張落

新男務問衣

今宿為新相澤

新利屋相澤

秦始皇帝太史松

三柳太史衣最濃

杭久末松山

笠屋三勝廿五年忌

富仁親王源源綿

款討源波梅

赤澤馬榮花物語

公中慈中乃

佐与中山夜泣石

於光新跡目論

杭久熊谷孟

本朝五翠殿

北國源氏令山吹

新艘を丈九

沙衣さゐ袂そでの白紋しろもん

公中丸腰連理松

平安城やすらぎ細石こいし

八百五十七号参文

八幡を吊束初櫓

傾城園性翁

仁徳天皇万歳車

思麻毛武蔵澄

小教盛花しょうけい穀こく

傾城三度笠

清前万々姿富士

愛子乃時箱

吉野忠信綿わた着長

北澤多我玉并曲

天智天皇あすか豊ゆふ盛秋

源舍尼將軍

花山院都巽つうしん

甲陽軍糧かうやうぐんりやう今換いまかへ糧

照日最都姿

西新法師墨染櫓

是まゝのふかむ根難初日の年月破と知せがう
追々老へ世にべーは次より初日の年月をあらは

後倉三代記

初日 享保三年戊戌正月二日

今年を夫と上野が極楽寺事務と交知は
け弟ハ世を夫万を夫丈丈木お前也

傾城吉原雀

日年八月朔日
十月国々

今様賢女手習鑑

日年十一月五日

義經新子鑑

享保四年己亥正月廿日

神功皇后三韓装

日年五月十五日
尚秋泉州堺へ移

業平昔物語

日年十一月朔日

鎮西八布唐土船

享保八年庚寅正月二日

富仁親王源家綿

日年六月三日

日本傾城始

日年九月廿一日

三輪丹前鑑

享保六年辛丑正月廿日

伏見常盤昔物語

日年八月十六日
七月国々

吳越軍被比翼其

日九ノ十日

大友王子玉在靴

享保七年壬寅正月二日

公中二ツ腹帯

日年四月六日
南夏秋場より紀元、以

東山殿室町合致

日十ノ十日

玄宗皇帝遠業應

日辰月出港を夫上登極

享保八年癸卯正月廿日

祀祿る我

日年八月六日

傾城無同鐘

日年七月十八日

日本建仁寺供養

日年十一月三日
三輪を走初る、内通す

頼政追ふ

いそ原を夫在世を夫に本勤

日年月日

享保九年甲辰二月朔日

高三月廿日大坂中大火其居も現焼身四月廿三日火焼の
芝居、建仁寺供養 夫々又る紙巻新地、

六月廿三日、建仁寺供養 頼政追ふ

いそ乃頼政今の芝居居を世と要求を幕府の間歌中
停勢、立越芝居お勤九月下旬、大坂、立越新造
の芝居、乃外題

女蟬丸

享保九年甲辰十月十六日

切三昔米万石通

享保十年乙巳正月二日
お浄より女蟬丸三度目より

南北軍同参

同年三月二日

身替弓張月

同年八月六日
和泉吉吏不吉吏初テ出座

大佛殿五代礎

同年十一月二日
南を京於以遠金三代記

曾我錦儿帳

享保十一年丙午二月朔日
新吉吏初テモ座

北條時頼記

享保十一年丙午四月八日
末未正月四日

切三雪乃辰

吉夫上地塚ワキ和泉吉吏夫三弦地塚八郎
吉夫ハ人形屋井小三郎近寄九八郎中村吉吏
ハ吉郎吉世吉吏不吉吏三輪吉吏吉吏おつとむ
佐吉西沢一風並本吉助安田姓文

清和源氏十五辰

享保十二年十月十五日
辰辰目極待太夫ワキ三弦太三ツレ不吉吏

攝津国長柄人柱

同年八月十五日

切三芦刈出結

吉夫上地塚吉夫ハ人形屋井小三郎
ワキ和泉吉吏不吉吏人 地塚八郎

享保十三年戊申二月朔日

同年五月十五日

商秋冬去良之新法和源氏時記然柄挂

享保五年己酉五月二日

旧年九月十日 九月 国三

切三 治方夫上世極ソキ和泉方夫三三克竹沃為二序

享保十五年庚戌五月廿日

切ニ出スル
右同

十四

同年五月六日

同月八日 朔日

第四七人形三眼のそとくろを仕和る

享保十六年壬寅正月二日

切。女丹書云。後天上元。楊口。手。和。氣。五。是。三。強。竹。溪。為。夢。

同年四月二日

同治六年六月朔日

同のおおききを支え道より右近三ノ見時辰文次郎

十月十六日

今又天誨摺三ちとそくを撰進上凡

秋香出洛其塵葉山

ワヤ
和泉太夫

初許之領然亦少掇者不重恭

太夫歌方招

三
竹
氏
氏
氏
氏

八百屋お七恋緋袴 二日目 享保十七年壬子正月廿日
藤原家三代記三日月と 倭を夫初テ出度

今様返魂香 同年五月七日 五月国子

待賢門夜軍 同 九月十日 尚冬和泉太史三編を夫返還

最若也忠信 三日月迄 享保十八年癸丑二月二日
要大夫初テ出度ニ付芝居の表ニ進物ヲ初鏡

切お初天神記 親多由り出度を夫越最極ツ倭太夫
おつひ人形を井小三郎三條竹俣を四郎

豫金比事多砥銭 同年四月十八日 倭を夫出度井俣より

芳吟人吾妻雛形 同年七月廿六日

切忠臣金經冊 同年十一月朔日
ふを夫河内を夫ト要冬迄

北條時頼記 二日目 享保十九年申寅正月二日
正局の床ヲ横床ニする

切雪乃匠 左妻越最極ツキハ同を夫三條竹俣を家
おを人形を井小三郎同小八郎中村初也房

苗日我昔見其玉 同 ちう二部り
新を夫八郎人形

那須与市西海観 同年八月十三日 尚冬倭を夫返還

南蠻秩後友目貫 享保廿年乙卯二月吉日

清和源氏十五辰 旧年ニノノ十二日

持持方丈廻ち極ワキに内を丈ツシ後を丈

万屋助六二代今衣 旧年又ノ六日

新萱堂門後赤葉輦 旧年ノノ十八日

男方丈初ノ初

和田合我女舞扇 享保廿年丙辰三月四日

安部宗任松浦釜釜 元文三年丁巳正月十八日

釜淵双級巴

旧年七月廿一日 和佐方丈初ノ初

系 輝丸 傾城を同降

旧年七月廿一日 十一月 末午 卯ノ二日

丹生山田主海劔

元文三年戊午四月八日

右の海より暫くお初す長普請三月六日より
より根條新地にてお初合我と八百屋お七恋排振と
勤め一四ノ普請成終一 新造さるる七月十
八日より又丹生乃山田とお初む

新宅祝系出祝 方丈廻ち極ワキ後を丈約を丈
三未せん 所候後四布

苗深中隠井戸

前法西八市

日五十一

要を夫五

奥州秀衡有婚

元文四年己未二月一日

佐後を夫五

速仁寺供養

日年五十一

倭を夫五

後夜衣等

日年五十一

尚を夫五

鵜山姫捨松

元文四年庚申二月六日

佐後を夫五

本田義光日本鑑

日年五十一

松を夫五

武烈天皇

佐子貴の人取

日年五十一

文を夫五

本朝初女

元文六年辛酉三月四日

梅樺食盛

二ツ後等

日年五十一

播州四

日年七月十八日

何内を夫五

田村磨

日年五十一

内を夫五

尚を夫五

百合雅高麗軍記

寛保二年壬寅三月四

如文鴻八景出諸

左史内不左史
ツレ文字書

三法地次八第

道成寺現立隣

旧年八月十一日
越左松治左史江左分ゆり勤

謙倉大系圖

旧年十月二日
本妻左史江左大系圖谷子例後江左史

風俗太平記

寛保三年癸亥三月四日
四月四日

久米仙人吉野橋

旧年八月朔日

潤色江戸紫

延享元年甲子四月二日

枋中純信正旭車

旧年九月十日
乃左夫妻左史江左和佐左史退左
柳左史

遊君衣紋鑑

旧年十二月二日

詩近江八景

延享二年乙丑二月朔日

増補大佛殿瓦代鑑

旧年五月四日
陸奥左史江左

浦嶋左史倭物語

旧年八月五日
十二月四日

北條時頼記

三六目 延享二年乙丑十一月三日
式三番三ノ勅公存勢去夫也丁出府

切害の辰出諸越なか板ワキ内至名改上野板三益股長在布
右丈元一世一代六十五丈出き人敗落并八布同十三部若竹長九布

酒吞童子出生記

延享三年丙寅十月六日
尚秋京坊越なか板一世一代久米仙人吉野板

花代藏流鴻

旧年十一月三日

裾重紅梅服

延享四年丁卯二月十三日
上総左丈出府改去夫

万戸將軍唐王日記

旧年二月十四日
薩方丈和出府上野文京左丈退府

梅川 其親連理松

寛延三年庚午六月朔日

和田合戦女舞踏

二辰 旧年八月七日
修方丈差左丈二名改和家八系松澤

玉藻前職杖

寛延四年辛未正月十五日

浪花文章夕雲塚

旧年四月十五日
六月国布

頼政扇子芝

二辰目 旧年七月十八日
水操切二踊

日蓮上人佛法海

旧年十月十日
百合左丈退府

五

一谷嫩軍記

宝曆元年辛未十二月十日
世時出初の流 八をを夫時夫改

並木宗輔名残作 筑古極治太夫所を太夫友を太夫
兼甲の金分切三踊 若を夫時太夫に流を太夫今を不

倭倭名在系系圖

宝曆二年壬申十二月七日
太夫志加太夫太夫太夫太夫

雄結勘助

宝曆三年癸酉七月廿八日

新道菜門執業

二日年十一日
日十七太夫太夫太夫太夫太夫

相馬左郎其子文祐

宝曆四年甲戌二月廿一日
二月廿一日

前義経腰越状
切金剛双級巴ニ目

日年七月廿九日

天智天皇新種菴

日年十一月十八日
太夫太夫太夫太夫

高冬信路太夫江分陽り新太夫と太夫名
所を太夫江分陽り新太夫と太夫名

三國小女帝曙様

宝曆五年乙亥四月廿一日

双扇長柄松

日年七月七日
切二操踊高秋櫻江後三年奥州軍記

後三年奥州軍記

日年十一月朔日
籍太夫初テ出

義仲勲功記

宝曆六年子三月十八日十一月
切丸菊松茂重友并小八弟

甲斐源氏極軍配

同年国十一月朔日
源氏左史初丁出彦

寫儘足利源

宝曆七年丁丑正月廿六日

前九年奥州合戰

同年二月九日

妹脊山女彦并弟 同年九月十日

三ノ
集

史記

同一年一千百

記十九

リ



